

令和7年度 学校評価報告書

学校番号(中36) 長崎市立(野母崎中)学校

1 教育目標

自ら学び、心身ともにたくましく、人間性豊かな実践力のある児童生徒の育成
(教育理念) ～総がかりで、夢を抱き、志を育み、未来を拓く小中一貫教育～
(校訓) 進取(進んで)・調和(共に)・創造(創る)

2 学校経営方針

(1) 「個を生かし、個が生きる」この一心で学校経営 (2) 願いを一つに揃えるため、教育活動の指針は校訓、到達すべきは学校教育目標
(3) 夢や理想を語り、その追求を続ける一人一人であることを目指す (4) R・V・P・D・C・Aのマネジメントサイクルによる学校経営
(5) 命の教育を根底においた基本的生活習慣の確立 (6) 子どもをど真ん中に据え、総がかりで支え、感動のある学校
(7) 信頼される学校 (8) 保護者・地域等と連携した学校(コミュニティースクール)
(9) 学力向上を図る学校(GIGAスクール構想の実現) (10) 特別支援教育の充実(個別最適な学び・協働的な学び)
(11) 働き方改革は意識改革(働きがいのある職場)

3 重点目標

〈基本的な考え方〉「教育活動の指針は校訓、到達すべきは学校教育目標」「進取・調和・創造」
○学校・学級の行事は基本、保護者や地域へ公開 ○平和を創る人を育てる平和教育の充実 9 3
(1) 基本的生活習慣の確立(あいさつ、はきものそろえ、「あ・は・は運動」の推進、体力の向上)
(2) わかる授業、個に応じた授業の展開(一人一台パソコンの有効活用、小中一貫教育を生かした授業改善)
(3) 保護者・地域との連携(コミュニティースクールの充実)
(4) 働き方改革による教育の質の向上
(ノー残業デーの小中統一、校務支援システムを活用した会議の短縮、児童生徒の成長・頑張りの共有)

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	100	93.1	100	教職員は経営方針や重点目標を意識し責任をもって業務遂行をしている。 教職員の業務改善については次年度の教育課程作成において行事の精選や時期について再考・工夫する必要がある。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	81.1	89.7	100	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			85.7	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			64.3	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	100	93.1	92.9	今年度は人権・平和教育が充実し、通信やHPを通じて学習過程や成果を保護者にも周知できた。一方で特別支援教育において教員が丁寧に対応しているが保護者へ伝わっていない現状である。わかりやすい情報発信やこまめな連絡を重ね、理解を得よう継続する。また生活アンケートやアセスの結果を踏まえて教育相談の機会を充実させ、保護者面談を必要に応じて行うなど丁寧な対応を継続して生徒や保護者の理解を深める。
		挨拶をよくしている	92.3	89.7	92.9	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)		100	92.9	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	83	82.8	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	90.6	81.5	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	98.1	100	100	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	100	89.7	100	
	特 別 支 援 教 育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	84.9	65.5	100	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	96.2	89.7	100	全学年で毎日の家庭学習の取組を指導・継続しているが依然として課題である。学習内容の充実や必要感を自己分析し、生徒の主体的な取組になるような働きかけを行う。ふるさとへの誇りや愛情は総合学習を通して高まっている。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	90.4	71.4	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	75	69	78.6	
	キ ャ リ ア 教 育	将来の自立に向けて適切に指導している	92.3	86.2	100	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	100			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	100	89.7	100	多くの生徒が、週2回の早朝ランニングに自主的に参加しており、体育の授業や行事等で体力向上に意欲的に取り組んでいる。朝ごはんの重要性や生活習慣について担当者が定期的に指導を行い意識づけにつながった。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	78.8	86.2	92.3	
		体力向上に努めている	82.7	82.8	100	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	94.2	85.7	92.9	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	98.1	89.7	100	学校の様子は学級通信や進路通信を定期的に発行しており、必要に応じてメール配信やHP等で情報発信を行っている。継続しながら内容の充実や方法について工夫する。校内研修では、小中一貫の特色を生かした研修形態に変更し、共通テーマのもと研究授業を実践し充実させた。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	96.2	86.2	100	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	90.2	75.9	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			92.9	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	96.1	86.2	85.7	施設は充実しており、恵まれた環境で学習活動に取り組むことができている。ICT機器の不具合が多く苦慮する場面があったがPC入れ替え等で今後改善が期待される。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			92.9	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

<成果>

- 小中一貫校として、9年間の見通しや小中連携を意識しながら一人一人の生徒に全職員で丁寧に対応できている。
- 総合的な学習の時間に「のもぎき学」として、学年の発達段階に応じたふるさと学習を継続・実践していることで、地域を大切にする気持ちが向上している。また人権・平和学習が系統的に実践されており、学年別の内容と学年の枠を超えた学習ができ、生徒自身の主体的な学習活動へと昇華できた。
- 先の見通しを立て早めの起案や連絡を心がけ、情報共有が適切に行われることにより業務の効率化につなげ、業務の改善を図ることができた。

<課題>

- 業務の効率化や改善については、その平準化を意識し、次年度の学校行事の内容精選や開催時期の見直しなどを行う必要がある。
- スマホの長時間利用が家庭学習や就寝時間に影響したり人間関係づくりにおいてトラブルの要因ともなったりしているため、使い方や情報リテラシー教育を生徒自身や保護者に向けて随時行っていく必要がある。
- 昨年度より若干肯定的意見の割合が向上したものの家庭学習については依然として職員・保護者の評価は厳しい。家庭学習の内容や方法について実態に応じた課題提示や効果的な方法を教員全体で研究し改善を図る。またわかりやすい授業に対する保護者の評価が低く、授業内容が十分理解できていない生徒がいることがわかる。授業研究を通してわかる授業を意識した授業改善に取り組み、個別最適化学習や補充学習の充実にも努める。

6 学校関係者評価

- ・学校側の説明を開き、学校が不登校児童生徒への対応を適切に行っていることが分かった。今後も保護者、関係機関と連携しながら児童生徒へ丁寧な関わりを続けていく。
- ・多くの項目において数値が改善しており教職員の努力のお陰だと感じる。今後も学校評価や教育課程の反省を分析・活用し、よりよい学校経営を目指していく。
- ・PTAは学校と地域をつなぐ存在である。今後も一層の連携強化を図る。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・生徒の電子メディア、特にスマートフォンの利用について学年が上がるごとに高い割合になっていることを受け、学校保健委員会の取組をはじめとして、メディアリテラシーについての指導や啓発を続けているところであり、今後も発信を継続する。
- ・教育環境について教科や部活動によってどうしても業務量の差異が発生しがちだが、毎学期の反省を実効性ある具体策にするなど、現在取り組んでいる教職員間の業務量平準化を一層推進する。
- ・子どもの学力向上を目指し、小中合同の校内研究をはじめとして、授業改善に取り組んでいる。次年度に向けて、学校としてよりよい方向性を打ち出していく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。